

2018

# 日中大学フェア&フォーラム in CHINA2018 開催報告書



国立研究開発法人 科学技術振興機構  
中国総合研究・さくらサイエンスセンター

# C o n t e n t s

## 日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2018

開催趣旨	1
開催概要	2
1. 「日中大学学長等個別会談」	7
2. 「日本大学フェア」および「日本技術展」	8
3. 「日中交流会」	10
4. 「日中大学フォーラム」	11
5. 「科学技術関連施設視察」	14
6. 「アンケート」	15
7. 「出席者一覧」	18

# 日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2018

## <開催趣旨>

アジアは21世紀の成長センターと言われている。事実、中国を初めとするアジアの成長は著しい。成長を牽引するのはイノベーションであり、次世代アジアのイノベーションを担う国際人材の育成は、日本と中国双方の喫緊の課題である。

「日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2018」(以下F&F)は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が主催、今回で通算13回目の開催となる。とくに中国での開催は6回目となる。日中関係の厳しさを乗り越え、現在では日中間で行われる最大規模の学術交流イベントとなっている。

F&Fのミッションは3つある。一つは日中間の大学交流である。アジアのイノベーションを牽引する日本と中国の大学が、共通の課題を克服するため、今後も連携することはきわめて重要である。

二つ目は留学の促進だ。いまや中国から海外に留学する学生の数は60万人を超えるのに対し、日本からの留学生はその10分の1に満たない。知のグローバルな循環と人的ネットワークの拡大・深化が必須となっている。

三つ目は産学連携である。大学での研究成果は社会に活かされて初めて生きた技術となる。大学、企業、研究機関のグローバルな連携は、イノベーション創出の基礎である。

「日中学長等個別面談」では日本から35機関の学長等が訪中し、中国側の学長等と熱心な意見交換が行われた。「大学フェア」では日本から34機関の大学等がブースを出展、「日本技術展」では46の優れた研究成果が紹介された。

「日中大学フォーラム」では、日中両国の200以上の大学、企業から集まった約800人が参集し、午後の分科会では「ナンバーワンを目指す学科構築について」と「オンリーワンを目指す大学の経営理念について」に分けて熱心な議論が行われた。

## <開催概要>

日程： 平成 30 年 5 月 12 日（土）-15 日（火）

開催地： 中国 広州花園酒店（広東省広州市越秀区環市東路 368 号）

主催： 国立研究開発法人科学技術振興機構、国家外国専門家局

共催： 中国国際人材交流協会 広東省科学技術庁

実施協力： 広州国際人材交流協会 広東工業大学

使用言語： 日本語、中国語（同時または逐次通訳付）

5 月 12 日（土）

### ●「日中大学学長等個別会談、日本大学フェア及び日本技術展」

会場： 花園酒店 3 階ファンクションルームフロア

時間： 15：30-17：30

#### 1. 日中大学学長等個別会談

趣旨： 日中の学長同士の意見交換を通じて、トップレベルの交流の促進につなげる

#### 2. 日本大学フェア

趣旨： 現地大学等との学術交流、協力関係締結、日本への留学希望者への情報提供

対象： 中国の大学の国際交流担当者、日本へ留学希望の大学生・高校生等

#### 3. 日本技術展

趣旨： 研究成果・技術シーズ展示を通じた、技術移転、国際産学連携の促進

対象： 中国の大学・研究機関・企業の産学連携担当者等

### ●「日中交流会」

会場： 花園酒店 1 階 国際会議センター

時間： 18：00-20：00

趣旨： 日中の関係者に人的ネットワーク拡大の場を提供する

来賓： 在広州日本国総領事館 総領事 齋藤 法雄

広東省外国専門家局 副巡視員 楊 佩軍

5 月 13 日（日）

### ●「日中大学フォーラム」

会場： 第一部・第二部 花園酒店 1 階 国際会議センター

第三部 花園酒店 3 階ファンクションルームフロア

時間： 第一部・第二部 9：30-12：00/第三部 13：00-15：00

趣旨： 日中共同の課題について発表・議論し、日中間の学術交流を深める

#### <第一部 開会式>

司会： 中国国際人材交流協会弁公室 主任 夏 兵

広東省人力資源社会保障庁 副庁長 勞 幟紅

文部科学省 文部科学審議官 伊藤 洋一

中国科学技術部党組メンバー（国家外国専門家局 副局長）夏 鳴九

<第二部 関係機関による講演>

司会：科学技術振興機構 理事 甲田 彰

中国国際人材交流協会弁公室 主任 夏 兵

中小企業基盤整備機構 副理事長 秋庭 英人

日本技術士会 専務理事 奈良 人司

広東工業大学 学長 陳 新

国立高等専門学校機構 理事長 谷口 功

科学技術振興機構 中国総合研究・さくらサイエンスセンター 上席フェロー 沖村 憲樹

<第三部：分科会（2テーマ、5会場）>

分科会 A-1)

テーマ： ナンバーワンを目指す学科構築について

モデレータ：暨南大学 学長 宋 献中

高知大学 理事（研究・医療担当）、副学長 本家 孝一

静岡大学 学長 石井 潔

名古屋大学 理事、副総長 渡辺 芳人

和歌山大学 学長 瀧 寛和

熊本高等専門学校 副校長 下田 貞幸

富山高等専門学校 校長 賞雅 寛而

大連理工大学 副学長 宋 永臣

広州大学 副学長 郭 興蓬

蘭州大学 学長 嚴 純華

蘇州大学 学長 熊 思東

西北大学 学長 郭 立宏

・分科会 A-2) テーマ： ナンバーワンを目指す学科構築について

モデレータ：名古屋工業大学 学長 鵜飼 裕之

滋賀大学 学長 位田 隆一

首都大学東京 副学長 大橋 隆哉

筑波大学 執行役員、国際室長 大根田 修

鹿児島工業高等専門学校 校長 丁子 哲治

福島工業高等専門学校 校長 山下 治

華東理工大学 学長 曲 景平

華南理工大学 副学長 余 其俊

華南農業大学 副学長 楊 洲

華南師範大学 副学長 吳 堅

瀋陽化工大学 党委書記 白 瑋

首都師範大学 学長 孟 繁華

- ・分科会 B-1) テーマ： オンリーワンを目指す大学の経営理念について  
 モデレータ： 北海道大学 総長 名和 豊春  
 岩手大学 副学長 上村 松生  
 神戸大学 学長 武田 廣  
 信州大学 学長 濱田 州博  
 学校法人立命館 理事長 森島 朋三  
 早稲田大学 副総長、常任理事 橋本 周司  
 広西大学 副学長 範 祚軍  
 海南大学 学長 李 建保  
 深圳大学 学長 李 清泉  
 香港中文大学（深圳） 副学長（国際事業担当） Jesús SEADE  
 中山大学 学長 羅 俊

- ・分科会 B-2) テーマ： オンリーワンを目指す大学の経営理念について  
 モデレータ： 総合研究大学院大学 学長 長谷川 真理子  
 朝日大学 学長 大友 克之  
 宇都宮大学 副学長、農学部長 夏秋 知英  
 愛媛大学 副学長、教授 杉森 正敏  
 お茶の水女子大学 学長 室伏 きみ子  
 中央大学 副学長、研究推進支援本部長 加藤 俊一  
 貴州大学 副学長 向 淑文  
 湖南農業大学 学長 符 少輝  
 汕頭大学 学長 姜 虹  
 廈門大学マレーシア分校 学長 王 瑞芳  
 中南林業科技大学 副学長 吳 義強  
 珠海市技師学院 副書記 梁 建昌

- ・分科会 B-3) テーマ： オンリーワンを目指す大学の経営理念について  
 モデレータ： 広東工業大学 学長 陳 新  
 大阪府立大学 理事長、学長 辻 洋  
 九州産業大学 学長 榊 泰輔  
 工学院大学 学長 佐藤 光史  
 静岡県立大学 学長 鬼頭 宏  
 兵庫県立大学 学長 太田 勲  
 三重大学 理事、副学長 鶴岡 信治  
 桂林電子科技大学 学長 古 天龍  
 華東交通大学 党委書記 万 明  
 湖南工業大学 学長 譚 益民  
 昆明理工大学 副学長 楊 斌  
 広州市技師学院 院長 李 宗国

●「広州市内見学」

見学先：陳氏書院

時間：15：30-17：30

5月14日（月）

●「科学技術関連施設視察」

視察先：広州大学城、華大基因(BGI)、小鵬汽車(X-PENG 自動車)

時間：9：30-16：00

5月15日（火）

●「広州市内見学」

見学先：中山記念堂

時間：9：30-11：30

## 1. 「日中大学学長等個別会談」

本イベント第一日目である5月12日の午後、「日中大学学長等個別会談」が開催された。



<熱気あふれる「日中大学学長等個別会談」の現場>



<多くのブースで行列ができる>

「日中大学学長等個別会談」は日中の大学の学長同士が直接交流する活動で、日本側からは早稲田大学、お茶の水女子大学、名古屋大学、北海道大学、和歌山大学などをはじめとする36の日本の著名な大学・高専・関係機関の学長、理事長などの代表者が参加し、一方中国側は 中国科学院大学、蘭州大学、大連理工大学、華南理工大学をはじめとする54の大学の学長・副学長が参加した。この日中の学長間の直接の「マッチング」は非常に効果的な交流の場となった。双方にどのようなニーズがあるかなどの情報が明らかになり、多くの科研協力プログラムや、研究者派遣や交換留学など多くの大学間交流の意向について基本的な決定がなされた。



<早稲田大学と鹿児島工業高等専門学校>

学長会談に参加した早稲田大学の橋本周司副学長は、「ある程度の準備はしてきたが、中国側の大学の熱心さは予想以上で、交渉のテーブルでは人が途切れなかった」と述べた。



<和歌山大学>

200名以上の学長らによる交流は終始活気に溢れ、主催者側は日本の各大学は中国側の6大学との会談を想定していたが、参加した全ての大学で会談の回数が予定数を超えた。日中双方の学長は共に大学に戻ってできる限り早めにそれぞれの要望を実現させ、一日も早く協定を結びたいという意思を表した。



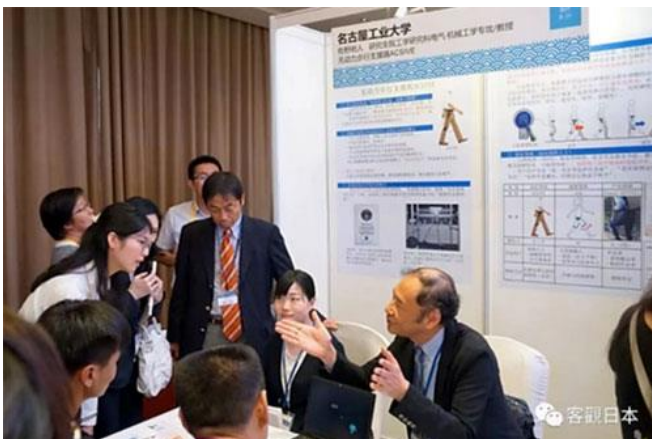
## 2. 「日本大学フェア」および「日本技術展」

5月12日午後、「日中大学学長等個別会談」のほか、「日本大学フェア」および「日本技術展」も同時開催された。



<「日本技術展」の様子>

「日本技術展」では合計46のブースが用意され、50以上の日本の大学・企業が開発した多くの分野の技術が展示され、成果の実用化がアピールされた。自動車自動運転技術、自動車排ガス浄化触媒、産業用ロボット、リハビリロボット、垂直離着陸機、8Kスーパーハイビジョン高精細ディスプレイ、スマートウォッチ、スーパーキャパシタ、ナノデバイス、工業廃水処理、医療器具、シニアライフ設備など、その分野は多岐にわたった。



<無動力歩行支援機への問合せは技術展終了まで続いた。>

名古屋工業大学大学院工学研究科電気・機械工学専攻の佐野明人教授は、リハビリや高齢者の歩行補助のための無動力歩行支援機 ACSIVE を紹介し、多くの参加者から注目を集めた。この装置は腰と膝下に

装着するもので、バネと振り子の動きが作用し自力歩行をアシストする。モーターやバッテリーも無く、重量はわずか650gである。佐野教授は、「これはハイテクと呼べるものでもないが、確実に人々の生活クオリティの改善を支援するものであるため、問い合わせに来る人が非常に多く、すでに20グループ以上が話を聞きにきている」と語った。



<福島SiC応用技研のブース>

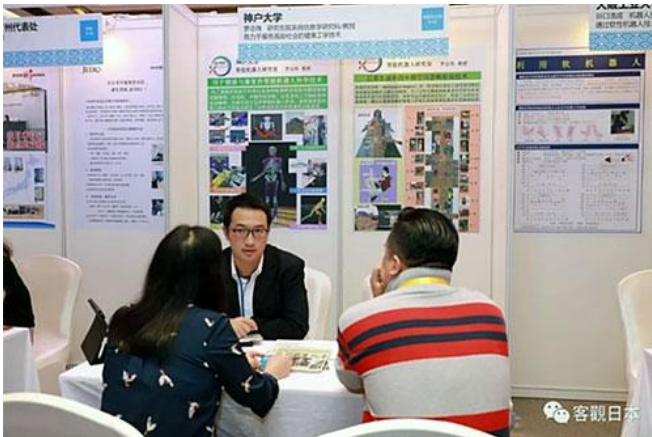
福島SiC応用技研株式会社はホウ素中性子捕捉療法(BNCT)設備のキーコンポーネント—SiC-BNCT大強度加速器中性子源を展示した。この製品は現在世界で唯一の多源多方向照射を実現しており、さらに正確ながん細胞を死滅させつつ、正常な細胞には損傷を与えない。福島SiC応用技研の取締役石本学氏によると「日中両国で同時にこの設備を発売する準備をしており、今回の技術展参加では、医療治験について協力が可能な機関を探している。わずか2時間にも満たない間にすでに4つの病院と10以上の大学・企業からの問い合わせがあり、反応も非常にいい」という。



<高知大学のブース>

高知大学は世界で唯一の海洋岩石ボーリング技術を初めて出展した。高知大学海洋コア総合研究センターは世界3大コアレポジトリーのうちのひとつであり、また日本で唯一の海底ボーリング試料を冷蔵保管する施設を有して分析・研究を行う機関である。センターでは非破壊計測を代表とする各種分析が可能であり、関連の設備も全世界の研究者に対し開放している。

ユーザマシンインタラクション関連技術、配車・管制システム関連技術など、自動車自動運転時に不可欠な研究成果を展示した。大阪工業大学は自動車の不整地での運転を支援する装置およびロボット駆動装置を出展した。



<神戸大学のブース>

神戸大学は高齢社会を支える健康工学技術を展示した。高齢や疾患に伴う脳における高次脳機能障害、失語症、半側空間無視、認知機能障害、身体における上肢運動障害、下肢の変形性膝関節症や、歩行および走行運動機能障害などについて、定量評価を行い、斬新なりハビリテーションを目指したロボットシステム技術の研究開発事例を紹介した。



<中国の学生と保護者からの留学情報の問い合わせ>



<「日本大学フェア」の様子>

「日本大学フェア」では34の日本の大学・高専が出展し、現地の学生およびその保護者にそれぞれの学校の特徴をアピールした。日本留学に興味のある学生は直接学校側に質問をぶつけ、その回答をすぐに得られたため満足度は非常に高かった。



<群馬大学のブース>

これらの他、群馬大学は協調型自動運転技術、ヒ

### 3. 「日中交流会」

5月12日夜、「日中交流会」が、広州花園酒店の国際会議センターで開催され、日中両国の大学・高専・関連機関の学長・理事長や学術界の関係者が招待され、日中双方から約800人が参加した。



<大盛況となった交流会>

同イベントを立ち上げたJST中国総合研究・さくらサイエンスセンターの沖村憲樹上席フェローは挨拶の際、各参加者への感謝の意を表しながら「同イベントは今回で16回目を迎える。元々無名だったが、今では日本の36の大学・高専の学長、54の中国の大学の学長をはじめ、日中双方で計1,500人が参加するほどの規模となった。これは、皆が共に努力した結果だ。今後、日中間の科学技術交流の機会が一層普及し深化すると信じている」と述べた。



<沖村憲樹上席フェロー>

続いて在広州日本国総領事館の齋藤法雄・総領事は挨拶の中で、「日中平和友好条約締結40周年を機に、日中双方の大学・高専のトップが広州で一堂に

会したというのは、特別な意味がある。安倍晋三首相と李克強首相が東京で会談し、多くの協定に調印した。広州で開催される今回のフォーラムで、たくさんの協力が誕生すると信じている」と語った。



<乾杯の挨拶をする齋藤法雄総領事>

また広東省外国専門家局の楊佩軍副巡視員は「日中双方が心を合わせて協力したからこそ、今回の活動がこれほどの影響力を持つようになった」と感謝の言葉を述べ、「今後も日中の相互理解を促進し、ウィン-ウィンを実現できるイベントがさらに多く開催されることを願っている」と語った。



<楊佩軍副巡視員>

JSTの齋藤仁志副理事は主催者を代表して挨拶を行った際、今回のイベントが成功裏に開催できるよう努力した各参加者に感謝を述べながら、「日中の大学の相互交流が多くの成果を生み出すことを願っている。この場で周囲の人と必ず名刺を交換し、たくさん交流してほしい。これは、日中大学フェア&フォーラムの目的の一つでもある」と強調した。

#### 4. 「日中大学フォーラム」

5月13日、広州花園酒店で開催され、日中両国の200以上の大学、企業から集まった約800人が参加した。



<日中大学フォーラムに参加した学長および来賓>



<フォーラムの様子>

フォーラムの冒頭、広東省人力資源・社会保障庁の労働紅副庁長、文部科学省の伊藤洋一文部科学審議官、中国側主催者の国家外国專家局の副局長で、中国科学技術部党組織メンバーの夏鳴九氏らが挨拶した。



<挨拶する広東省人力資源・社会保障庁の労働紅副庁長>

労働紅副庁長はまず、広東省人力資源・社会保障庁、広東省外国專家局を代表して、日中大学フェア&フォーラムが成功裏に開催したことを祝福し、中国内外から参加した専門家を歓迎。「双方が協力して開催されるこのフォーラムは、大学間の多元的で、ハイレベルかつ網羅的な交流に立脚しており、日中両国がテクノロジー教育分野の知恵を交換できるように、また、研究成果の実用化面における協力を促進し、中国が構築中の「世界一流大学、一流学科」、日本が実施している『スーパーグローバル大学』などを促進、推進する上での大きな役割を必ず果たすだろう」と語った。



<挨拶する日本文部科学省の伊藤洋一文部科学審議官>

伊藤文部科学審議官は挨拶の中で、「今年は日中平和友好条約締結40年にあたり、両国の政治家が頻繁に往来する一年でもある。テクノロジーの分野も同じで、文部科学省の林芳正大臣が今月4日に北京で科学技術部の王志刚部長と会談し、テクノロジーの分野における協力をめぐって意見を交換した。『日中大

学フェア&フォーラム』を日中両国の多くの大学や機関が支持し、参加し、大学間、学生間の相互交流がさらに促進されているのを見ることができ、とてもうれしい」と語った。



<中国科学技術部党組織メンバーの夏鳴九氏>

夏鳴九氏は、「今年是中国改革開放 40 周年で、日中平和友好条約締結 40 周年でもある。このような特別な年に、日中大学フォーラムが開催されるというのはとても大きな意義がある。フォーラムは日中両国の大学間の協力と発展に立脚し、両国のテクノロジーや教育の分野の知恵の交流を促進し、日中両国の大学のテクノロジー成果の転換、協力を深化させ、日中の大学の協力のための交流プラットフォームを構築してくれる。そのために、『日本技術展』、『日本大学フェア』、『日中大学学長等個別会談』、『日中交流会』などが企画されている。この機会を利用して、皆さんが交流を強化し、意思の疎通、協力を深化させることを望んでいる」と語った。



<講演を行う中国国際人材交流協会弁公室の夏兵主任>

中国国際人材交流協会弁公室の夏兵主任は講演の中で、「数日前、国务院の李克強総理が日本を訪問し、第 7 回日中韓首脳会談に参加し、日本の安倍晋三総理とも会談した。両国の関係は現在正常な軌道に戻っている。そのような背景があり、今回のフォーラムの開催は時宜にかなっている。中国が今世紀半ばまでに現代化国家を完成させ、中国の国民、さらに日本を含む世界各国に発展のチャンスをもたらすと信じている。日中の大学学長が意思の疎通を強化し、互いに学び合い、共に進歩することを願っている」と語った。



<JST 沖村憲樹・上席フェロー>

JST 中国総合研究・さくらサイエンスセンターの沖村憲樹・上席フェローは登壇した際、JST が推進する「日本・アジア青少年サイエンス交流計画」（さくらサイエンスプラン）について紹介した。同プランは、沖村上席フェローが中心になって企画したもので、多くの資金を援助して、中国を含むアジアの青少年を短期に日本へ招へいする国際交流プロジェクトだ。招へいする青少年は、40 歳以下の高校生、大学生、大学院生、ポストドクター、教員、公的な機関の科学技術関連業務従事者などだ。授業などではノーベル賞受賞者も招待される。同プロジェクトは 2014 年から実施され、これまでにアジア 35 ヶ国の 1 万 9,500 人が来日した。うち、中国人が 6,600 人である。

沖村上席フェローは、「私には、同プランを通して、できるだけ早くアジアの青少年 3 万人を日本に招くという目標がある。そのうちの 1 万人が中国人だ。少しでも多くの学校が相互理解を強化する友好事業である同プロジェクトに参加することを願っている」と語った。



<国立高等専門学校機構の谷口功理事長>

国立高等専門学校機構の谷口功理事長は講演の中で、企業の間で好評を博している、エンジニアを育成する日本の職業人材教育制度「高等専門学校（高専）」を紹介し、日本の高専は中国の「中専」とは異なり、エンジニアを育成する高等教育機構である点を強調した。



<中小企業基盤整備機構の秋庭英人副理事長>

中小企業基盤整備機構の秋庭英人副理事長は、日本の中小企業に対する支援制度を紹介し、「日本には企業が382万社あり、うち、大企業は約1万社だけ。残りの381万社は中小企業だ。そのため、経済産業省は中小企業庁を設置し、各地方自治体や関係機関と共に、情報提供や人材育成、資金提供などの多くの面で、中小企業に総合的な支援を行っている」と語った。



<日本技術士会の奈良人司専務理事>

日本技術士会の奈良人司専務理事は、日本の技術士制度について紹介した。現在、日本の各企業には技術士の資格を持つ従業員が約11万人おり、彼らが各業界の技術分野の屋台骨を支える存在となっているという。



<分科会：「ナンバーワンを目指す学科構築について」>



<分科会：「オンリーワンを目指す大学の経営理念について」>

>

午後開催された分科会では、日中の54校の学長、副学長が登壇し、「ナンバーワンを目指す学科構築について」、「オンリーワンを目指す大学の経営理念について」という2つのテーマをめぐる論議を行った。分科会には、日中の大学250校の関係者が参加した。

## 5. 「科学技術関連施設視察」

オプションツアーとして、13日の午後には「陳氏書院」、14日には「広州大学城」での大学視察、ゲノム解析大手の「華大基因」、新興電気自動車メーカーの「X-Peng 自動車」の企業視察が行われた。

「日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2018」は、成功裏のうちに全ての日程を終了した。



<X-Peng 自動車>



<陳氏書院>



<華大基因>



<広州大学城>



<広東工業大学>

## 6. 出展・参加者アンケート集計

有効回答数 44件（※）

※ 総回答数は44件で、参加したプログラムのみ、回答を記載いただいている。

「日中大学学長等個別会談」

満足 16件（84%） 普通 3件（16%） / 19件

「日本大学フェア」

非常に満足 11件（44%） 満足 11件（44%） 普通 3件（1%） / 25件

「日本技術展」

満足 21件（75%） 普通 7件（25%） / 28件

「日中交流会」

満足 26件（68%） 普通 12件（32%） / 38件

「日中大学フォーラム」

満足 25件（68%） 普通 12件（32%） / 37件

「企画全般について」

非常に適切 14件（32%） 適切 25件（57%） やや不適切 1件（2%）

未回答 4件（9%） / 44件

企画全般について【非常に適切】評価のコメント

さくらサイエンス交流センターによる中国学生に対する広報活動が、今後の日中友好にとっても重要だと感じました。薬学系大学を見学して感じたのは、共同機器の充実ぶりには圧倒されましたがあまり使われた形跡がなく、人材不足を感じました。このあたりが、今後日本が参画できる部分かと思いました。

工業高等専門学校のことを対中国および参加している日本の大学にPRできたと感じました。ありがとうございました。

以下、感想です。交流会では、国士舘大学からは1名のみでの参加であったためや、人数が多く、個々の参加者の参加目的の確認も困難だったため、中国の関係者と情報交換の機会を得ることが出来なかった。中国の科学技術に対する取り組みや、熱心さを、生の情報として感じ取ることができ、大変有意義でした。今回は、初めての参加で、情報収集の目的が大きかったのですが、技術移転や共同研究を積極的に進めるフェーズの際には、参加する意義が大きいと感じました。今後ともよろしくお願いいたします。

日本大学フェアに開催時間が足りなかったのです。もう少し長くしていただければと思います。

初めて参加する機会を頂き、日中の大学での今後の方向性や取り組みなどを勉強することができ大変有意義でした。

今回は大変お世話になりました。このような機会を頂戴し、多くの中国の大学関係者にお目にかかることができ、私どものような地方の私立大学にとりましては



非常に勉強になりました。ありがとうございました。

日本大学フェアでは、大学関係者等の皆様に加え日本の大学へ進学を希望する学生の皆様にお越しいただくとより効果が高まるだろう。／分科会についてご登壇者様の欠席、発表順等を各大学随行者へ事前に、また当日変更が生じた場合もお知らせいただきたい。また分科会でモデレータを務める大学へ事前に日中発表者様の氏名の読み仮名を事前にお知らせいただくと、発表者様ご紹介時に大変助かります。／日中大学フェア事務局内より発信される情報について、事務局としての統一見解をご提供頂けるとありがたく存じます。

#### 企画全般について【適切】評価のコメント

登壇者以外は、各機関の経費で参加することになります。地方からの場合、羽田や関空への国内線の利用について、航空会社が限られてきます。同一航空会社での乗継便として購入した方が、経費節減につながります。全参加者が JAL に統一されているなら仕方がないと思いましたが、JST の職員の一部だけは ANA 便を利用していたようなので、海外渡航に利用する便は複数から選べるようにしていただきたいと強くお願いいたします。

どうも世話になりました。多くの人に会うことができ、満足しております。引き続きよろしく申し上げます。

本学では中国に特許出願をしていないので、長年かかって開発した技術を簡単に盗まれてしまうだろうと感じた。中国の企業と提携して（中国企業の負担で）中国にも特許出願して行くべきだと思う。

技術展に配置された通訳の学生は非常に優秀でした。技術移転・アソシエイトの私としては、企業ヒアリングという観点では少し物足りない部分はありましたが、日中の大学間の交流が深まったのは良かったと思います。ホテル・航空機手配などは大変ありがたかったです。

夜食事の時に、固定席が置いていなかったのが、ちょっと不便です。これの改善を望ましいと思います。

日本技術展に関しては、充実した商談を行うことができましたので概ね満足しております。この度は本学教員にお声がけいただき、誠にありがとうございました。日中交流会に関しまして、テーブルの数が少ないように思いました。もう少し設置されていると、相席になった方と交流を持つ機会が多くの人に与えられて良かったのではないかと思います。

大変お世話になりました。中国、日本の他大学の事情をお伺いすることができ、また交流することができました。大変参考になりました。

立派な通訳をつけて下さり、非常に助かりました。良かったです。

通訳の学生は非常に優秀でした。／当初、大学とも技術とも関係無さそうな家族連れが来たので驚きました。場所柄しょうがないのでしょうか。／技術よりも大学間交流に関心の高い方の割合が高くて、技術紹介という意味では効率が悪かったです。それでも、こちらの技術に関心を示す方が何人も来ましたので、中国での研究、開発、市場ニーズの感触を得るという意味では悪くありませんでした。

「日中大学フォーラム」テーマ設定の背景や、持ち時間等の情報が事前にあると、プレゼン資料の準備に反映できたかもしれません。

大学フェアへの出展がメインであった。今年で3回目の参加になるが、ブースへの来訪者がわずか2時間程度の中に、30名程度あり、終了時にも数名が来ていた。来訪者の内訳は大学、研究機関の研究者、地方政府の役人、企業、理研OB、大学生、高校生など全国からきている感じであった。これは、主催者の人集めへの努力の賜物と思われる。来年は、大学フェアの時間をたとえば、丸一日午前、午後にするともう少し時間を延ばさないと、せっかく来てくれた人々に申し訳ないと思います。

#### 企画全般について【やや不適切】【未選択】評価のコメント

現地では大変お世話になりました。3年連続の参加となりましたが、今回はとてもスムーズに流れていたように思います。ただ一つ残念でしたのが、最終日の現地大学・企業視察のタイムスケジュールがあまりにもタイトすぎたようです。大学も3つあるようでしたら、人数で3分割してもよかったのかもしれません。それでも、当日や2日目の午後の市内見学など毎回のことになりますが、現地の状況を肌で感じることができ、また、普段行けないような所を回らせていただけ、その調整等大変だったと思います。とても感謝いたします。ありがとうございました。

高専機構本部の要員として参加しました。中国に於ける高専の認知度を高め、中国側に高専を正しく理解していただくためにはよい機会だったと思います。あと何回かすれば高専に対する(高専は単なる職業訓練校だという)誤解がとけると思います。

## 7. 出席者一覧

日中学長等個別会談日本側出席者一覧

#	大学名	役職	名前
1	朝日大学	学長	大友 克之
2	岩手大学	副学長	上村 松生
3	宇都宮大学	副学長、農学部長	夏秋 知英
4	愛媛大学	副学長、教授	杉森 正敏
5	大阪府立大学	理事長、学長	辻 洋
6	お茶の水女子大学	学長	室伏 きみ子
7	九州産業大学	学長	榊 泰輔
8	群馬大学	学長	平塚 浩士
9	工学院大学	学長	佐藤 光史
10	高知大学	理事(研究・医療担当)、副学長	本家 孝一
11	神戸大学	学長	武田 廣
12	埼玉工業大学	副学長	巨 東英
13	滋賀大学	学長	位田 隆一
14	静岡大学	学長	石井 潔
15	静岡県立大学	学長	鬼頭 宏
16	首都大学東京	副学長	大橋 隆哉
17	信州大学	学長	濱田 州博
18	総合研究大学院大学	学長	長谷川 眞理子
19	中央大学	副学長、研究推進支援本部長	加藤 俊一
20	筑波大学	執行役員、国際室長	大根田 修
21	名古屋大学	理事、副総長	渡辺 芳人
22	名古屋工業大学	学長	鵜飼 裕之
23	兵庫県立大学	学長	太田 勲
24	北海道大学	総長	名和 豊春
25	三重大学	理事、副学長	鶴岡 信治
26	学校法人立命館	理事長	森島 朋三
27	和歌山大学	学長	瀧 寛和
28	早稲田大学	副総長、常任理事	橋本 周司
29	国立高等専門学校機構	理事長	谷口 功
30	鹿児島工業高等専門学校	校長	丁子 哲治
31	熊本高等専門学校	副校長	下田 貞幸
32	富山高等専門学校	校長	賞雅 寛而
33	福島工業高等専門学校	校長	山下 治
34	日本技術士会	専務理事、事務局長	奈良 人司
35	中小企業基盤整備機構	副理事長	秋庭 英人

日本大学フェア出展機関名一覧

#	機関名称
1	秋田大学
2	朝日大学
3	岩手大学
4	愛媛大学
5	大阪大学
6	お茶の水女子大学
7	加計学園(岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・千葉科学大学)
8	群馬大学
9	工学院大学
10	高知大学
11	滋賀大学
12	静岡大学
13	首都大学東京
14	上智大学
15	総合研究大学院大学
16	大東文化大学
17	千葉大学
18	中央大学
19	筑波大学
20	電気通信大学 TLO(株式会社キャンパスクリエイト)
21	名古屋大学
22	名古屋工業大学
23	南山大学
24	日本学術振興会北京研究連絡センター
25	日本学生支援機構
26	広島大学
27	福島工業高等専門学校
28	北海道大学
29	三重大学
30	武蔵野大学
31	理化学研究所北京事務所
32	立教大学
33	和歌山大学
34	早稲田大学
35	科学技術振興機構

日本技術展出展機関名一覧

#	機関名称	出展者	出展課題
<b>装置・デバイス</b>			
1	岩手大学	理工学部 教授 平原 英俊	分子接合技術による革新的 ものづくり製造技術
2	大阪大学	理学研究科 助教 桂誠	カメラ校正によるサブピクセル 画像計測の汎用化
3	大阪工業大学	工学部電子情報通信工学科 教授 神村共住	レーザー用光学素子の接合 技術
4	大阪府立大学工業 高等専門学校	メカトロニクスコース 教授 土井智晴	高走破性能駆動機構をもった レスキューロボットの研究開 発
5	鹿児島工業高等専 門学校	情報工学科 助教 古川翔大	単一画像からのヘイズ除去 法
6	熊本高等専門学校	情報通信エレクトロニクス工学 科 教授 葉山清輝	マルチコプターに主翼を付加 した垂直離着陸機
7	高知大学	海洋コア総合研究センター 教授 岩井雅夫	地球掘削科学共同利用・共 同研究拠点分析機器群
8	静岡大学	イノベーション社会連携推進機 構 特任教授 小嶋豊誠	世界に役立つ新しい光科学、 新しい光産業を創造する。－ 「光の先端都市 HAMAMATSU」で、光を識り、 光を使うことを究める。－
9	電気通信大学	情報理工学研究科機械知能シ ステム学専攻 教授 森重功一	多軸制御工作機械および産 業用ロボットを用いた生産の ためのソフトウェア基盤技術 開発
10	名古屋工業大学	大学院工学研究科電気・機械 工学専攻 助教 佐藤徳孝	自律制御・センシング・VRに よる移動ロボットの遠隔操作 システム
11	福島工業高等専門 学校	機械システム工学科 教授 鄭耀陽	MCF ゴムを用いた触覚セン サーに関する研究・開発
12	和歌山大学	システム工学部 教授 中嶋秀朗	段差や傾斜路面でも使用可 能な移動プラットフォーム
13	タムロン光学(仏山) 有限公司	技術開発センター 課長 周鼎瑜	タムロン新製品/技術の出展 及び自動化技術紹介

超スマート社会			
14	宇都宮大学	大学院工学研究科情報システム科学専攻 助教 大川猛	電力効率の良い FPGA 処理をロボットへ導入可能な ROS 準拠コンポーネント
15	群馬大学	次世代モビリティ社会実装研究センター センター長 大学院理工学府電子情報部門教授 太田直哉	群馬大学次世代モビリティ
16	奈良先端科学技術大学院大学	物質創成科学研究科 准教授 徳田崇	光エネルギーハーベスティングによる波長変換装置および IoT 端末
低炭素・エネルギー			
17	信州大学	環境・エネルギー材料科学研究所／繊維学部 教授 杉本渉	導電性ナノシート:次世代スーパーキャパシタ・燃料電池触媒の新鋭
18	奈良先端科学技術大学院大学	物質創成科学研究科 准教授 石河泰明	太陽光発電モジュールの劣化状況が簡単に判る評価技術
19	兵庫県立大学	大学院生命理学研究科 准教授 菓子野康浩	大量培養微細藻類からの直接的迅速な有用物質回収技術
20	福島工業高等専門学校	電気電子システム工学科 助教 橋本慎也	ハイブリッド蓄電池利用太陽光発電システムの自立運転試験の紹介
医療			
21	九州産業大学	医療診断技術開発センター 研究員 付文強	新規蛍光色素の特長を活かした蛍光電子顕微鏡の開発
22	国土舘大学	理工学部 教授 神野誠	ロボ・メカ技術で医療従事者をやさしく支援
23	静岡県立大学	大学院薬学研究院 講師 南彰	低血糖副作用を回避できる新規糖尿病治療薬の開発
24	大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学院	准教授 徐睿	知能計算を用いた医用画像のコンピュータ診断支援システム
25	名古屋工業大学	大学院工学研究科電気・機械工学専攻 教授 佐野明人	無動力歩行支援機 ACSIVE

26	福島 SiC 応用技研株式会社	京都支店業務部 副部長 鳥井 芳朗	SiC パワー半導体を採用した BNCT がん治療装置
<b>マテリアル・リサイクル</b>			
27	大阪府立大学	工学研究科 教授 金野泰幸	高温での強度と耐摩耗性に 優れた Ni 基二重複相金属間 化合物合金(Ni 基超々合金)
28	福岡大学	工学部資源循環・環境グルー プ 准教授 武下俊宏	BDF グリセリン廃液を全量資 源利用可能とするアップサイ クル技術
<b>ライフサイエンス</b>			
29	工学院大学	先進工学部環境化学科 教授 岡田文雄	無害で安全な理想の家庭用 殺菌洗浄剤: オゾンガスフリ ーのオゾン水
30	埼玉大学	大学院理工学研究科 助教 松下隆彦	ナノ抗体提示多糖を用いた高 感度免疫測定
31	埼玉工業大学	人間社会学部情報社会学科 教授 森沢幸博	「心の健康支援、脳波可視化 アプリケーション「ZENAVI」
32	筑波大学	生命環境系 教授 三浦謙治	園芸作物リソース整備とゲノ ム編集技術の適応
33	室蘭工業大学	大学院もの創造系領域 教授 環境調和材料工学研究センタ ー センター長 平井伸治	レアアースを用いた安全・安 心な抗菌剤と繊維の抗菌性
<b>環境保全・浄化</b>			
34	鈴鹿工業高等専門 学校	材料工学科 講師 幸後健	バイオフィルム形成抑制を有 した可視光透過性膜の防汚 性効果について
35	中央大学	研究支援室 事務長 林和生	下水中のリン回収を可能にす るジルコニウム担持多孔質膜
36	富山高等専門学校	物質化学工学科 教授 袋布昌幹	鉱物化による排水中フッ素・ リン資源の機能性資材への ダイレクトリサイクル
37	立命館大学	理工学部環境システム工学科 教授 神子直之	種々の未利用紫外線光源を 用いた水処理技術の開発・高 度化
38	三木理研工業株式 会社	営業部 呉泰康	染色排水やホルマリン排水 のバイオ処理及び機能性木 材の開発

ナノテクノロジー			
39	明石工業高等専門学校	専攻科 教授 テクノセンター センター長 中西寛	貴金属・レアメタル代替デザインと触媒デザイン
40	工学院大学	先進工学部応用物理学科 教授・学部長 本田徹	マイクロ LED チップの集積化による次世代マイクロ LED ディスプレイの創製
41	兵庫県立大学	工学研究科電子情報工学専攻 准教授 豊田紀章	ガスクラスタライオンビームによる原子層エッチング
42	三重大学	大学院工学研究科 准教授 青木裕介	300℃での長期耐熱性を有する高放熱・高絶縁膜のコーティング技術 ~次世代パワー半導体向け回路基板の作製技術確立を目指して~
43	株式会社エリオニクス	営業部海外営業課 松尾有樹	電子線・イオンビーム技術を使用したナノ加工技術
シニアライフ			
44	大阪工業大学	ロボティクス&デザイン工学部 ロボット工学科 准教授 谷口浩成	ソフトロボティクスによる多用途リハビリテーション装置
45	神戸大学	大学院システム情報学研究科 教授 羅志偉	高齢社会を支える健康工学技術
その他			
46	日本貿易振興機構 広州事務所	対日投資促進部 高級経理 盧真	JETRO 広州事務所事業紹介